



君の世界に芽生えるものは

くおんじゅく

久遠塾

vol. 69



久遠塾 ☎ 080-2182-1379 13:00~20:00

メールアドレス shiranuka.kuon@gmail.com

白糠高校オープンラボ2 く白高のクマムシく開催

12月26日、白糠高校にて「久遠塾ゼミ」を開催しました。今回は生きたクマムシを顕微鏡で観察しました。参加者は児童5人、高校生を含む大人が9人の14人でした。

観察対象をクマムシとしたのは、前回のオープンラボで、参加者の児童から「クマムシを観察したい!」というリクエストをいただいたからです。そこで、白糠高校の校地内でクマムシが生息しているような、こけむした場所を10カ所ほど探し、そこから土を取って顕微鏡でクマムシを探すという地道な作業を繰り返して、

ついにクマムシを発見しました。

クマムシの飼育は、塾スタッフにとって初めての試みです。クマムシをそのままコケの中に住まわせているのは観察するのに不便です。そこで、粉状の寒天をミネラルウォーターで溶かし、それをシャーレに入れてゼリー状に固め、そこへ一匹ずつスポイトでクマムシを移しました。飼育する場所は、白糠高校に保管されていたミニ温室を使い、温度は恒温条件である22度程度を保ちました。餌には生クロレラを与えました。こうした苦労はありましたが、無事に「オープンラボ2」を開催することができました。

今回も前回同様に住きたミジンコを観察対象として用意したほか、タンポポやフキノトウ、ホウレンソウ、ハクサイの気孔も観察しました。

参加した児童も大人もクマムシの動く姿に興味深々。「とても面白かった。クマムシを観察できてうれしかったです」「大変貴重な体験をさせてもらいました」などの感想をいただきました。

今回は「カニムシ」を見たいというリクエストをいただきましたので、今度はそれに向けて準備を進めたいと思います。



クマムシやミジンコの観察でミクロの世界に魅了され、植物の気孔にも興味を示していました。



スーパーボールのベースとなるスライム作りに熱中する子どもたち。手慣れた手つきで作業を楽しんでいました。

新春企画「スーパーボール祭り」

1月14日、町内の小中学生を対象とした「スーパーボール祭り」を開催しました。参加者は児童生徒15人、保護者4人の19人でした。

「スーパーボール祭り」とは、スライムからスーパーボールを作るイベントです。参加した児童生徒は、スライムは作ったことがあっても、そこから発展したスーパーボールは作ったことはなく、興味を持ってもらえるのではないかと企画しました。子どもたちは初めてのスーパーボール作りに熱中。上手に作れた子もいれば、ヒビやシワだらけの仕上がり

りになった子もいたり、完成品は千差万別。それでも自分だけのオリジナルスーパーボールができたことに大満足の様子で、楽しんでもらえたようです。

塾スタッフの岡戸講師は、図や顕微鏡写真を用いて、洗濯のり・水・ホウ砂をそれぞれ組み合わせることで、ゼリーのようなプルプルとした触感になることを説明しました。

参加した子どもたちからは「スライムがなぜプルプルするのか初めて分かりました」「スーパーボールを作るのは難しかったけれど楽しかったです」という感想をいただきました。